

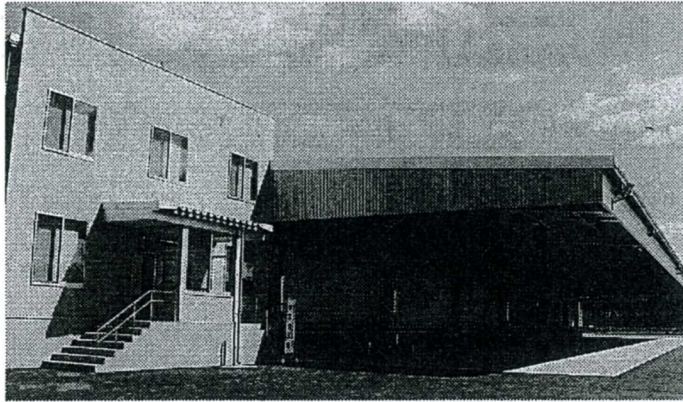
# 新潟支店リニューアル

## 荷さばきスペース1.5倍に

### 第一貨物 災害時の代替え機能も

第一貨物（武藤幸規社長、山形市）は新潟支店（新潟市東区）の施設をリニューアルし、24日から稼働させる。既存ターミナルが老朽化するとともに、手狭になったため、荷さばきスペースを1.5倍に拡張した。業務の一層の効率化が図られるだけでなく、太平洋側で災害が発生した際の代替え機能も想定している。

（河野 元）



これまでと同じ新潟市東区寺山に2万2000平方メートルの敷地を確保し、鉄骨造り一部2階建て、延べ床面積2860平方メートルのセンターを建設。2台車、4台車向けのプラットフォームは屋根で覆うインドアタイプで、雨天や降雪に関わらず、快適に作業できる。

セキュリティ面も重視し、デジタル式監視カメラプラットフォームは屋根で覆うインドアタイプで、雨天や降雪に関わらず作業可能

を24台設置。発光ダイオード（LED）の照明器具を積極的に取り入れたほか、仮眠室のベッドもリサイクルが容易なカプセル式にするなど、省エネも推進。農地が多い近隣の景観にマッチするよう、敷地の周囲には植栽も施す計画だ。

土地の一部と建物は、ディー・ティー・ホールディングス（武藤社長、東京都江東区）傘下の事業会社から借り受けて運営。スタップ103人、車両98両を充てる。設備投資を踏まえ、自社集配エリアも拡大する。併せて、新潟県内にある三条（三条市）、長岡（長岡市）の両支店の管轄も見直し、荷主ニーズに、よりの確に心えられるサービスづくりを目指す。

東日本震災で日本海側ルートの重要性が注目されたことから、危機管理を担う拠点としての役割も持たせる。

17日に行われた竣工式で、武藤社長は「最新の設備を導入したハードをフル活用し、更なる物流サービスの向上に努力したい」と述べた。